

薬学への招待 Invitation to Pharmacy

素養科目 1年／前・後期 2単位 必修科目

科目責任者 川崎 知己(副学長)

■ 教育目的

薬学は時代の変遷とともに受け持つ分野が拡大している。また、社会の要請に従って変化して行く。

薬学は『くすり』についての総合科学である。新しい『くすり』をつくる創薬科学、『くすり』の作用と生体の機能を解き明かす薬学独自の生命科学、そして病気の予防、保健などに深いかかわりをもつ衛生薬科学、さらに医療の現場で『くすり』を適性を使用することを学ぶ医療薬科学に至るまで、薬学は幅広く奥の深いものである。

本講義は薬学部に入學した学生に、「薬学とは何か」を伝える導入教育である。

■ 学習到達目標

「薬学とは何か」を命題としてもち、充実した学生生活を送るために、薬学の目指す学問領域、薬剤師および薬学研究者の職域とその任務について概要を理解し、体験（見学）を通して薬学へのモチベーションを高める。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：授業内容のキーワードを調べてみる。

復習：講義で興味を持ったことや気になったことなどをインターネットなどで積極的に調べ、「薬学とは何か」を探り出してみよう。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	薬学とは何か：薬学教育	大学で何を学ぶか、薬学と薬剤師	A (2)、B (1) ~ (3)
2	薬学の新しい動き	薬学の歴史、医薬品の役割、薬剤師の使命	A (2)、B (1) ~ (3)
3	早期体験学習	オリエンテーション	
4	薬剤師の現在・未来	医薬分業、薬剤師の歴史、医療と倫理、基本的人権の尊重、ヘルシンキ宣言	A (1) -2-1~2、A (2) -1~2 A (3) -5、C18 (3)
5	薬学と社会	薬学を取り巻く法律と制度、社会保障制度	B (1) -2-1 C18 (1)、(2)
6	医薬品の創製 1	医薬品とは何か、近代創薬の歴史、医薬品の開発と評価	B (1) -2-4、4-1、-4-3 C17 (1)、(4)
7	医薬品の創製 2	医薬品の開発研究：創薬研究の最前線	C17 (2) -1-1
8	健康薬学 1	生活の中の食品衛生	C11 (1)、(3) C12 (1)、(2)
9	健康薬学 2	健康保持のための疾病予防、生活環境のあり方とその保全	B (1) -2-5、C11 (1) (3)
10	薬の効果と個人差 薬の相互作用	薬の体内運命と成長・加齢・疾病の関係、薬の作用メカニズム、薬の作用が他の薬によって変わる理由	C13 (1)、(4)
11	〈薬〉 医療と薬剤師 1	病気と薬物治療の過去・現在・未来	B (1) -1-1~2 C14 (2) -1-1~2
//	〈生命〉 薬学と研究者 1	製薬企業研究所の現状と展望	B(2)-3
12	〈薬〉 医療と薬剤師 2	過去の薬害事例の検証 副作用被害の予防・軽減と薬剤師の役割	
//	〈生命〉 薬学と研究者 2	生命科学系企業研究所の現状と展望	B(2)-3
13	〈薬〉 医療と薬剤師 3	病院薬剤師、開局薬剤師の現状と未来	A (3)、B (1) -2-2、2-3
//	〈生命〉 薬学と研究者 3	公的研究機関の現状と展望	B(2)-3
14	早期体験学習	前期および後期に薬剤師・薬学出身者の活躍する施設を見学し、小グループで討論する	B (2) -1~4

■ 授業分担者

No.1、2：石井 啓太郎（学長）

No.4：学外講師（佐谷 圭一 元日本薬剤師会会長）

No.5：古澤 康秀（社会薬学教授）

No.6、7：古源 寛（医薬分子設計学教授）

No.8：永山 敏廣（薬学教育研究センター教授）

No.9 : 石井 一行 (衛生化学教授)

No.10 : 吉田 久博 (薬物体内動態学教授)

No.11 : 【薬】越前 宏俊 (薬物治療学教授)

: 【生命】学外講師 (小原 健男 資生堂)

No.12 : 【薬】学外講師 (高山 康信 元厚生省医薬品副作用対策室長)

: 【生命】学外講師 (福田 保路 キョーリン製薬)

No.13 : 【薬】岸野 吏志 (薬剤情報解析学教授)

: 【生命】市川 智恵 (感染制御学助教)

No.11 ~ 13 【生命】小グループ討論担当: 高波 利克 (薬品物理化学教授)、生命創薬科学科教員

■ 成績評価方法

授業の出席 (30%)、課題レポート (30%)、施設見学・グループ討論の態度 (40%) により総合的に評価する。

■ 参考書

『ヒューマニズム・薬学入門』日本薬学会 編 (東京化学同人)

『社会と薬学』日本薬学会 編 (東京化学同人)

『早期体験学習ガイドブック』村田 正弘 編 (ネオメディカル)

『薬学概論』沢村 良二 編 (南山堂)

『薬学概論 改訂第4版』辰野 高司 他 編 (南江堂)

■ その他

〈生命創薬科学科〉11 ~ 13 回授業 (講義と小グループ討論、発表) のオリエンテーションを別途行う。